

2023 年 2 月 9 日

2022 年度自己点検・評価Ⅲ

－理念実現に向けた基本方針の質の保証－

<3 次>執行部による点検・評価

○沖縄大学基本方針

1. 沖縄大学の学生支援に関する方針

本学の学生支援は、学生の窓口となる部署を中心に、各部署、各学科の連携で遂行されている。奨学金に関しては、修学支援新制度（給付）や学内外の各種奨学金制度がうまく活用され、学生支援課が窓口となって、学生が学修に専念できる環境づくりの実現に努めている。特に学内奨学金は、修学支援新制度とのあり方が検討され、より良い奨学金制度へと発展させることが達成できしており、引き続き、適正な予算規模（「奨学金の適正化の取り組み」）をもとに運用を進めていきたい。（学生支援課）

学生の正課外活動（サークル、ボランティア、学生の自主企画等）は、新型コロナの影響もあり、低調だったサークルや団体もあったが、学生の成長や社会性を培う貴重な取り組みとして評価し、本学の後援会や同窓会、体育会などとの連携協力も得ながら、引き続き積極的な支援を行っていただきたい。（学生支援課）

学生の心身に関する相談は、新型コロナの影響も重なり増加傾向にある。保健室（保健師、学校医・産業医）や学生生活支援室（キャンパスソーシャルワーカー、カウンセラー）を中心に、教職員や履修相談室との連携を強めて、学生が心身ともに健康な学生生活が送れるようサポート体制を堅持していただきたい。（学生支援課：保健室、学生生活支援室）また、障がい学生支援についても同様、「合理的配慮」が必要な場合は、学内教職員のみならず外部の専門機関とも上手く連携し、ユニバーサルな大学づくりの実現に努めていただきたい。（学生支援課）

学生の就職支援は、就職支援課を窓口にして各企業や団体からの求人情報を預かり、適切な情報管理のもと就職希望者へ情報提供を行っている。就職相談については、相談員 2 名が配置されているが、学生数の増加に伴い、増員も含めて検討する必要がある。また、インターンシップ等のキャリア支援については、2023 年度から変わる「インターンシップに関する取扱い」にそって適切に進めていただきたい。（就職支援課）

各種対策講座などに対する支援については、就職支援課を窓口 SPI 対策講座や公務員セミナー、そして公務員奨励金や資格取得支援などを行っている。また、簿記、FP、行政書士、宅建の各種試験対策講座については、同じく就職支援課を窓口、経法商学会がその予算支援を行って実施されている。その他、教員採用試験対策講座については、教職支援センターが窓口となってその支援を行っている。いずれの対策講座も合格実績の向上に欠かせない支援となっており、引き続き積極的な支援を行っていただきたい。（経法商学科、就職支援課、教職支援センター）

ハラスメントに関する対応については、総務課所管のもと、ハラスメント防止委員会に関する各種規程にそって相談窓口担当者を各部署、各学科に配置し、学生支援課がその相談事務を担当する。ハラスメントのないキャンパスづくりを目指し、引き続き相談体制の強化と防止におけた啓発活動に取り組んでいただきたい。(総務課、学生支援課、各部署、各学科)

2. 沖縄大学の社会との連携・協力に関する方針

2022 年度の社会との連携・協力の活動努力は、地域研究所と経営企画室を中心に行われており、その成果が評価できる。今後、コロナ終息を期待しながら、連携活動が拡大できることを期待する。(地域研究所、経営企画室) 地域連携・地域貢献とつながる包括連携協力は、地域研究所と業務分担を行いながら、進めていただきたい。(経営企画室)

コロナ禍で十分実施できなかった年 2 回の授業公開は、地域向けの知識還元の間として再び活用していただきたい。(教務課)

共同研究、琉球弧研究、委託事業、公開講座は地域共創センターを軸に地域研究所が行っており、評価できる成果を上げている。とくに今年度 20 回目標を達成しつつある土曜教養講座を中心とした公開講座は、共同研究班の成果還元、各学科からの公開講座の可能性をより広げながら、また、改革総合支援事業の加点も視野に入れながら、進めていただきたい。(地域研究所、各学科)

3. 沖縄大学の国際交流に関する基本方針

2022 年度は海外派遣留学が再開し、2023 年度には留学生の受け入れも決定していることから、コロナ禍で停止していた本学の国際交流の活性化が少しずつ進んでいる。留学生の受け入れに関しては、留学生同士の交流機会やフォロー体制など、留学生が孤立しないような取り組みを検討していただきたい。また、留学先の新規開拓として、新たに龍仁大学(ヨンイン大学:韓国)との協定も進んでおり、活発な交流に期待したい。英語圏の提携大学の新規開拓についても引き続き検討していただきたい。今後の国際交流に関する取り組みを推進していくためにも、国際交流室と関係する学科(特に国際コミュニケーション学科)との連携の在り方も検討していただきたい。(国際交流室、国際コミュニケーション学科)

4. 沖縄大学の教育研究等環境の整備に関する方針

教育効果を高めるため、ハード及びソフトの両面から必要な教育整備を行う必要がある。特に、グランド用地については今後とも情報収集にあたり、対応できることは早急に取り掛かってほしい。(施設課) 教育研究や事務の効率化を図るために、情報インフラを整備することが大切である。ICT を活用した学習支援環境や図書館機能の充実を図ることで、学生の主体的学習の促進をしていくため、研究支援体制を整え、研究倫理の遵守を徹底することも必要となる。(図書館、マルチメディア教育研究センター、地域研究所、教職支援センター、総務課)

また、様々な人々への配慮の視点から、バリアフリーやユニバーサルデザインのキャンパスを目指

しながら、環境にも配慮した「エコキャンパス」作りを今後も目指してほしい。(学生支援課、施設課、地域研究所、福祉文化学科)

5. 沖縄大学教職員の行動指針

教職員が日頃からお互いの立場と役割を理解することが大切である。そして、学生、教職員及び職務の遂行の上で関わる全ての人々基本的人権、人格、価値観、プライバシー等を尊重し、どのような場合でもハラスメントや差別、人権侵害を行わない取り組みが必要である。また、法令及び学内諸規程を遵守しながら社会規範や道徳に対して高い意識を持てるような取り組みを行ってほしい。(各学科、総務課、学生支援課)

また、地域の大学としての役割として、地域環境の保全を大学が責任をもって果たしていくことが求められる。今後も将来に向けて地域社会との交流や連携を積極的に推進してほしい。(地域研究所、各学科)

様々な情報の取り扱いについては、十分に配慮し、特に、ソーシャルメディア等での情報発信に際しては、内容の正確性や適切性等を考慮しながら、機密情報の管理については徹底してほしい。(総務課、各学科)

6. 沖縄大学の求める教員像

教員採用については、教員採用調整委員会の中で学長を長として推進している。2022 年度においては、退職教員が複数名いるため、公募から選考に至る過程の中で「沖縄大学教育職員任用の基本基準及び資格基準に関する規程」にそって公正で透明性の高い人事を行うことや在職教員を含めたジェンダーバランスと教授数の確保を意識した採用を行ったが、今後も研究分野における専門的な力量、業績があることを前提とした上で、沖縄に深い関心を持ち、地域とともに生きる教員として本学の理念である「地域共創・未来共創の大学へ」に共感し、腰を据えて研究、教育及び沖縄大学の運営に取り組める人物の採用を心がけていただきたい。(総務、各学科)

コロナ禍での経験を活かし、本学の学生を理解し、一人ひとりの学生を大切に、学生のニーズにも配慮して講義や演習、学生指導に当たるようこころがけてほしい(各学科、総務課、学生支援課)

自らの研究課題、テーマに取り組む姿勢を通じ、学生に、学ぶ楽しさ、困難を乗り越える勇気、そして、他者とともに、暮しやすく、希望もてる社会を創り出す意欲をもてるようにサポートできるように全教員がとりくんでほしい。(各学科)

地域の大学としての役割として、地域環境の保全を大学が責任をもって果たしていくことが求められ、地域の SDGs 推進への大学の関与も求められている。地域社会との交流や連携を推進し、地域社会の未来を創造する人材を育てるようこころがけてほしい。(地域研究所、各学科)

7. 沖縄大学の教員組織編制に関する方針

教員採用については、教員採用調整委員会の中で学長を長として推進している。2022 年度においても、退職教員が複数名おり、今後 10 年間に多くの教員の退職が予想される。そのため公

募から選考に至る過程の中で規程にそって公正で透明性の高い人事を行うことが必要となる。また在職教員を含めたジェンダーバランスと教授数の確保を意識した採用計画を教員組織編成検討評価委員会の中で行ってほしい。(総務課)

さらに「沖縄大学教員の昇任の手続きに関する規程細則」が改正されたが、手続きや内容に不備がないか確認してほしい。(総務課)

8. 沖縄大学の管理運営に関する方針

2009 年8月に「教職協働」をテーマに第一回教職合同研修会を開催した。以来、学生支援、中退対策、修学支援、ハラスメント防止等々をテーマとして、教育職員、事務職員合同で夏季休暇中に研修会を開催し、2022 年度で 14 回を数える。教員と職員が立場の違いを超え、学科や部署の垣根を越え、その時々大学の課題を共に考え共に解決策を探る。教職合同研修会は沖大の理念である「共創力」の内的実践である。

コロナ渦の中で、教職合同研修会もここ数年はリモートでの開催となっている。リモート会議のメリットは十分に認識しつつ、教職員間で、協力関係、信頼関係を深めていくには、対面での意見交換の機会を設けることも重要である。次回以降の教職合同研修会は出来るだけ対面で実施し、教職員間で意見交換が出来るような場を設定してほしい。(総務課)

2019 年度より月に 1 度、理事長及び常務理事参加の上、事務局会議(事務局長及び総務課、経営企画室、経理課、施設課各課長がメンバー)を開催し、情報や課題の共有と問題解決に向けた調整の場としている。2022 年 4 月には「役員の職務及び責任の明確化に関する機関決定」がなされ、副学長理事についても、それぞれ所管する部署が明確になった。同年5月からは担当副学長別の教学事務会議(各部署課長職等が参加。黒木班は教務課、国際交流室、教職支援センター、マルチメディア教育研究センター(教務部長も参加)。崔班は学生支援課、就職支援課、図書館、地域研究所、入試広報室(学生部長も参加))を月 1 回のペースで開催し、部署ごとの課題の検討や情報の共有を行っている。

各学内理事が所管する部署、つまり責任の範囲を明確にすることは、大学全体のガバナンス強化に資するものである。特に 2023 年度は第 5 次中期計画の総括及び第6次中期計画を策定する年度であり、各部署の事務管理職は、常務理事あるいは担当副学長と協力しその作業を進めてほしい。

2022 年度入学者数は 642 人(入学定員 550 人)、5 月 1 日付在籍者数は 2,459 人(収容定員 2,234 人)とここ数年好調をキープしている。学生生徒納付金は 2,014,965 円(補正予算)であり、初めて 20 億円を上回る見込みである。基本金組入前当年度収支差額は△55,149 千円の赤字(収支差額比率△2%)となるが、これは会計士からの指摘を受け、退職給与引当金繰入額が当初予算案より 70,756 千円増の 144,000 千円になるという特殊事情によるものであり、財務上すぐに問題となる数字ではない。しかし、特殊事情を除いた場合でも収支差額比率は 0.5%であり、目標とする 10%には遠く及ばない。

次年度作成予定の第6次中期計画において、収支バランスの改善等、目標達成のための方策を

示してほしい。(経営企画室)

○沖縄大学の内部質保証の手続きと方針

1.内部質保証の方針と手続

内部質保証のための点検評価のしくみは確立・実施されている。一方で教職員の中では長期ビジョンや中期計画に対して「他人事」のように感じ、やらされ感をもって仕方なく取り組んでいるという声を聞く。必要性を理解した上での実のある活動とするための工夫が必要と考える。内部質保証の実質化が教育の充実と学生の学習効果の向上に結びつくことはもちろんのこと、大学の理念・目的の実現に不可欠であることを周知し、それぞれが「自分事」として取り組む工夫を引き続き検討してもらいたい。(経営企画室)

2.全学内部質保証推進組織の権限と役割

全学内部質保証推進組織の権限と役割は確立しそれぞれの組織が連携して実施されている。教学 IR のさらなる充実をお願いしたい。(経営企画室、教務課)

3.全学内部質保証推進組織と学部・学科、研究科その他の組織との役割分担

それぞれの役割分担はできている。しかし学部学科においては「教員の行う事務作業が多すぎる」という意見も耳にする。経営企画室職員が学科へ赴き意見交換が行われるなど役割の周知に尽力いただいているが、大学のミッション実現のために教員の負担を減らしつつ大学理念達成のために楽しく取り組める仕組みづくり、例えば SDGs のパートナーシップを軸にした役割分担を検討してほしい。(経営企画室、地域研、各学科)

4.教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上のための指針

第五次中期計画重点課題(部署計画)アンケート評価(3年目)がおこなわれた。全ての部署計画の中から、重点課題 335 件が「沖大の特色の伸長、課題の改善に効果がありそう」と期待される取り組みとして選ばれ、4票以上の得票のあった重点課題 29 件を一覧表にして報告された。本アンケートにより、本学の特色を伸ばす推進力が高まり、OKIDAI VISION 2028「地域のキャンパス、地域がキャンパス」の実現に向かっていく一助になればと願っている。しかしながら回答率 33.6%と昨年、一昨年を下回る結果となった。アンケートの意義を今一度確認点検する必要があるのではないか。他の評価方法も視野に検討をお願いしたい。(執行部、経営企画室)

自己点検評価の状況を含め、事業報告書等、本学の教育研究活動の状況や 成果について適切に公表がなされている。これからも引き続き情報の公表を適切に行ってもらいたい。(経営企画室)